

ボーイング式787型機で発生した燃料漏れ等に係る航空局の調査結果について

平成25年2月22日

日本航空株式会社（JAL）及び全日本空輸株式会社（ANA）において発生したボーイング式787型機に係る下記の事案に関し、別添のとおり調査結果を取りまとめましたのでお知らせします。

また、航空局は、下記(1)の燃料漏れ事案について、同型機を運航する JAL 及び ANA に対し、別添のとおり再発防止策を講じるよう指示しましたので、あわせてお知らせします。

記

- (1) JAL における燃料漏れ事案（1月9日（日本時間）及び1月13日発生）
- (2) ANA におけるブレーキ装置の一部不作動（1月9日発生）
- (3) ANA における操縦室窓のひび割れ（1月11日発生）
- (4) ANA における発電機用オイルの熱交換器からの漏洩（1月11日発生）

添付資料

[ボーイング式787型機で発生した燃料漏れ等に係る航空局の調査結果について](http://www.mlit.go.jp/common/000988512.pdf) (PDF ファイル) 

<http://www.mlit.go.jp/common/000988512.pdf>

[資料1-1 日本航空のボーイング式787 型機における燃料漏れについて（調査結果概要）](http://www.mlit.go.jp/common/000988513.pdf) (PDF ファイル) 

<http://www.mlit.go.jp/common/000988513.pdf>

[資料1-2 日本航空のボーイング式787 型機における燃料漏れについて（調査結果）](http://www.mlit.go.jp/common/000988514.pdf) (PDF ファイル) 

<http://www.mlit.go.jp/common/000988514.pdf>

[資料2-1 全日本空輸のボーイング式787 型機における機材不具合について（調査結果概要）](http://www.mlit.go.jp/common/000988515.pdf) (PDF ファイル) 

<http://www.mlit.go.jp/common/000988515.pdf>

[資料2-2 全日本空輸のボーイング式787 型機における機材不具合について（調査結果）](http://www.mlit.go.jp/common/000988516.pdf) (PDF ファイル) 

<http://www.mlit.go.jp/common/000988516.pdf>

(再発防止策の指示)

[資料3 ボーイング式787 型機に係る燃料漏れについて](http://www.mlit.go.jp/common/000988517.pdf) (PDF ファイル) 

<http://www.mlit.go.jp/common/000988517.pdf>

お問い合わせ先

国土交通省航空局安全部航空事業安全室 島津

TEL：03-5253-8111（内線50144） 直通 03-5253-8731

国土交通省航空局安全部航空機安全課 山田

TEL：03-5253-8111（内線50213） 直通 03-5253-8735

（報道より）

○テレビ朝日 2013年2月22日

日本航空のボーイング787型機で起きた燃料漏れについて、国土交通省は、機体の製造段階の異物の混入などが原因とする調査結果を発表しました。

先月、日本航空のボーイング787型機で燃料が漏れるトラブルが、アメリカ・ボストンの空港と成田空港で相次ぎました。国交省が燃料タンクを調べたところ、製造工程で使われたテープなどの異物が燃料の逆流防止弁に入り込み、正常な作動を妨げていた可能性が高いことが分かりました。また、燃料を放出する弁を開閉するスイッチに塗料などが付着したため、開いたままになっていたということです。国交省は、全日空と日本航空に対して、弁が閉まっているかどうか目視での点検を徹底するよう通達を出しました。